

平成31年度 都立高入試 配点について

新教育研究協会

都立高入試の予想得点の算出にあたりまして、弊社が予想いたしました配点をお知らせいたします。

国語 ー記述問題の配点についてー

④〔問5〕200字課題作文

●配点…10点

●採点方法

- ・記述問題が200字作文1問だけであるため、採点は複数の先生が行い、互いにチェックする形になると思われます。「○○について××が書かれている。」のような具体的な基準を各校が定め、段階的に点数を設定していると想定されます。

〈内容〉については下記のような配点がされていると思われます。

- ・自分の意見、主張があるか…4点
- ・筆者の主張を踏まえているか…3点
- ・具体的な体験や見聞があるか…3点

これらの項目について不備がある場合は、各配点の範囲で減点されると思われます。ただし、全体として論旨に一貫性のないものは2点減点、本文の抜き出しや要約になっているものは不可(0点)となると思われます。

- ・さらに、下記のような形式面で、減点されると思われます。

〈表記〉・句読点の誤り、誤字、脱字、衍字(=余計な字)などがあるもの…1～2点減点

・最後の一文が途中で終わっているもの…1点減点

・101字以上150字以内のもの…2点減点 ・100字以内または201字以上のもの…不可(0点)

〈言葉の特徴やきまり〉

常体と敬体の不統一／書き言葉としてふさわしくない／語句の意味や用法・文法上の誤りがある 等

…1～2点減点

数学 ー完全記述問題の配点についてー

●配点…各7点

●採点方法

- ・模範例についての予想配点です。各学校によって違いはありますが、部分点があると思われます。

②〔問2〕

1個目と n 個目の円の太線の部分の長さの合計は、
 $2\pi r \times \frac{240}{360} \times 2$ となる。
また、2個目から $(n-1)$ 個目までの円の太線の部分の長さの合計は、 $2\pi r \times \frac{60}{360} \times 2 \times (n-2)$ となる。
よって、 $M = 2\pi r \times \frac{240}{360} \times 2 + 2\pi r \times \frac{60}{360} \times 2 \times (n-2)$
 $= 2\pi r \times \frac{4}{3} + 2\pi r \times \frac{1}{3} \times (n-2)$
 $= \frac{1}{3} \times 2\pi r \times \{4 + (n-2)\}$
 $= \frac{1}{3} \times 2\pi r \times (n+2)$
 $\ell = 2\pi r$ であるから、 $M = \frac{1}{3} \ell (n+2)$

- ・図形の周りの長さを、いくつかの部分に分けて、それぞれ求められていれば4点と思われます。なお、それぞれの部分の長さには適宜、部分点が与えられるものと思われます。
- ・式の変形ができ、適切に処理することができていれば2点と思われます。
- ・ $M = \frac{1}{3} \ell (n+2)$ が成り立つことが的確に示されていれば1点と思われます。
- ・誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になるとされます。

④〔問2〕①

〔証明〕
 $\triangle ABP$ と $\triangle PDR$ において、
四角形 $ABCD$ は平行四辺形だから、 $AB \parallel DC$
平行線の錯角は等しいから、
 $\angle PAB = \angle RPD$ …………… (1)
仮定から、 $BP \parallel QD$
平行線の錯角は等しいから、
 $\angle APB = \angle PRD$ …………… (2)
(1), (2)より、2組の角がそれぞれ等しいから、
 $\triangle ABP \sim \triangle PDR$

- ・(1), (2)のうち、1つが書けていれば3点、2つが書けていれば6点になるとされます。
- ・(1), (2)は順不同でもよいと思われます。
- ・「2組の角がそれぞれ等しい」は、「2角相等」などでもよいと思われます。
- ・誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になるとされます。

英語 一課題英作文の配点について一

●配点…12点

●採点方法

- ・各学校によって違いはありますが、文法面とともに内容面を重視して採点すると思われます。
- ・一昨年より、空所の前後につながるように英文3文を記入してメール文を完成させる形式が続けて出題されています。今年の内容は「(新たに)始めた1つのこと」であり、具体的内容を1つ示したあと、そのことを始めた理由や関連する内容等を示す文章を続ける解答となると思われます。また、時制面では現在形だけでなく、経験したことを述べるのに過去形を使うなど、幅広い時制の文が認められると思われます。
- ・学校によっては、つづり字、読点、大文字、小文字などの表記上の誤りがあれば、各文1～3点の減点があると思われます。ただし、同じ誤りを何回も繰り返したような場合は、全体で何点の減点というような配慮がなされると思われます。

社会 一記述問題の配点について一

●配点…各5点

●採点方法

- ・③〔問3〕 問題文中に「地域の変容について、立地及び土地利用に着目し」とあるので、「立地」についてⅠの略地図とⅡの略地図を見ると、太線で囲まれた地域のすぐ近くには複数の鉄道の線路や駅が位置することから、交通の利便性が高いことがわかります。また、「土地利用」についてⅠの略地図とⅡの略地図を比較すると、Ⅰの略地図では太線で囲まれた地域に工場や厚生施設、駐車場があったのに対し、Ⅱの略地図では太線で囲まれた地域に高層の建物がいくつも建てられていることがわかるうえに、Ⅲの表から1999年から2017年にかけて太線で囲まれた地域の人口が大きく増加していることが読み取れることを踏まえると、この地域に建てられた高層の建物は、マンション(集合住宅)であると考えられます。これらのことを踏まえて、太線で囲まれた地域が「複数の鉄道を利用できる交通の利便性が高い地域」に立地することに触れたうえで、「地域の変容」として「工場や駐車場、厚生施設があった場所に高層マンションが建設された」ということと、Ⅲの表から読み取れる「地域の人口が増加した」ことの両方に触れ、簡潔にまとめていけば正答となると思われます。
- ・⑤〔問1〕 問題文中に「国民生活の変化について、消費者物価指数と月間現金給与額の増加割合に着目し」とあるので、「消費者物価指数の増加割合」についてⅡのグラフを見ると、1960年から1970年にかけて消費者物価指数が100から約170に増加していることから、約1.7倍の増加となり、増加割合は約70%となることがわかります。また、「月間現金給与額の増加割合」についてⅢのグラフを見ると、1960年から1970年にかけて一人当たりの月間現金給与額が約24000円から約76000円に増加していることから、約3.2倍の増加となり、増加割合は約220%となることがわかります。ここから、「消費者物価指数の増加割合」よりも「月間現金給与額の増加割合」のほうが大きいということ、すなわち物価の上昇よりも賃金の上昇の方が大きいことがわかり、したがって国民生活は豊かになっていったことが考えられます。これらのことから、「消費者物価指数よりも月間現金給与額の増加割合が大きい」ことに触れたうえで、Ⅰの文中の言葉を用いて、国民生活について「生活水準が引き上げられた」ということに触れて、簡潔にまとめていけば正答となると思われます。

理科 一記述問題並びに作図問題の配点について一

●配点…③〔問3〕(2): 2点, ⑤〔問2〕: 4点

●採点方法

- ・③〔問3〕(2) 緊急地震速報は発表されると同時に全ての地点で同時に受信されます。表1よりS波の速さは3.5km/sですので、緊急地震速報の受信と主要動の到達が同時刻である震源からの距離がX〔km〕である地点から、3.5km離れるごとに緊急地震速報の受信から主要動の到達までの時間は1秒ずつ増加します。よって「3.5km遠ざかる」ということが前後の文につながるよう書かれていれば、正答になると思われます。
- ・⑤〔問2〕 <結果1>の表の『銅の粉末の質量』と『化合した酸素の質量』の関係を方眼上に●で正しく記入し((0.40, 0.10), (0.60, 0.15), (0.80, 0.20), (1.00, 0.25), (1.20, 0.30)の4点に●を記入), 原点から記入した●をすべて通り、方眼の端まで達する直線となるグラフがかかれていれば、正答であると思われます。